本文中のメールアドレスの「@」は全角で表記しております

ISSN 1881-2864

PANews

PA ニュース

Vol. 22, No. 3, Aug. 2012

発行：日本生理人類学会

www.jspa.net

もくじ

▽大会報告 …… 1
▽若手の会レポート …… 2
▽大会のお知らせ …… 3
▽学会各賞受賞者の言葉 …… 4
▽学会動静 …… 5
▽ from Editors …… 7

【大会報告】

第 66 回大会(2012 年 5 月 12 日～ 13 日)報告

草野洋介（長崎ウエスレヤン大学）

ある祝賀会の席上，学会会長，2 名の副会長の 3 人に呼ばれました．3 人の間の席が空いていて，「ここに座って！」・・・・勝浦会長「実は・・・・」こうやって第 66 回大会大会長を務めることになりました．

長崎での開催は，第 5 回，当時長崎大学医学部衛生学教授で長崎県立諫早高校の大先輩である中村　正先生，第 42 回，恩師である長崎大学医学部公衆衛生学教授竹本泰一郎先生，第 53 回，助教授として仕えた長崎大学医学部公衆衛生学教授青柳　潔教授に続いて 4 回目で大変光栄に思います．

私が勤務する長崎ウエスレヤン大学での開催を検討したのですが，諸会議の場所の確保が難しく，私も実行委員としてかかわった長崎大学医学部 150 周年記念事業の際，建築された「良順会館」で開催することにしました．

長崎ウエスレヤン大学は講座制でなく，大学院もないため，正直どうやって運営しようと大変不安でしたが，同僚で会員である片山先生が事務局長，私が担当している教科推進担当理事の幹事を以前務めてくれた九州大学の小崎先生が実行委員長を務めてくれることになり，実行委員会が組織され，実行委員の先生方のご尽力で無事開催までこぎつけることになりました．また青柳先生には物心ともにサポートいただき大変感謝いたしております．

大会において，記念講演として本学会名誉会員である竹本先生に「環境適応 - 移住と高地居住をめぐって - 」という題で，教育講演として長崎大学医学部保健学科教授で生物統計学の第一人者である本田純久先生に「少数例データの統計解析上の留意点」という題でお話しいただきました．またシンポジウムでは本学会の 5 つのキーワードに

記念講演
環境適応 - 移住と高地居住をめぐって -

大いに盛り上がった懇親会

シンポジウム
生理的多型性の本質に迫る

ついて第 50 回大会とそれを受けて開催された特別シンポジウム以来，語り合う機会がなかったため，「生理的多型性の本質に迫る」というシンポジウムを安河内副会長に司会を，岩永先生，前田先生，樋口先生，石橋先生にシンポジストをお願いし企画しました．

若い先生方に竹本先生の講演を聴いてもらいたい，統計における研究計画とサンプリングの重要性を認識してもらいたい，5 つのキーワードの中で一番わかりにくい「生理的多型性」についてみなさんと語り合いたい，その想いが結実し感無量でした．また口演 26 題，ポスター 22 題の発表が行われ熱い討論が行われました．

本学会の大会で特に重要だとよく言われる？懇親会は，近年開発が進んだ長崎港のベイエリアにあり，私もよくお世話になる「水辺の森公園レストラン」で開催しました．5 月中旬の長崎は一番季節がいい時期でありオープンテラスの気持ちいい会場で交流を深めることが出来たと確信しています．

最後になりましたが，実行委員の皆さま，会員の皆様に協力していただき，つつがなく大会長の任を終えることができ大変感謝申し上げます．大会長を経験し日本生理人類学会の素晴らしさを改めて認識いたしました．今後ともよろしくお願い申し上げます．

第 66 回大会優秀発表賞

第 66 回大会における優秀発表賞は，厳正な審査の結果，以下の方々に授与されることが決定しました．おめでとうございます．

・向江秀之氏(豊田中央研究所)
　ステアリング模擬操作への微小振動付与の効果ーパイロットスタディー

・李　宙営氏(千葉大学)
　自然環境の違いが歩行時の生理応答に及ぼす影響

・清田直恵氏(大阪保健医療大学)
　後方床移動外乱に伴う事象関連脳電位に対する異なる指反応課題挿入の影響

【若手の会レポート】

第 19 回若手研究者発表会

高橋隆宜(大阪市立大学)

2012 年 5 月 11 日(金)に長崎大学医学部良順会館にて若手の会を開催しました．今回は千葉大学の修士を修了し，現在株式会社イトーキにお勤めの高原　良さんと，佐賀大学医学部に所属されている山田クリス孝介先生のお二人にご講演いただきました．高原さんは，企業でオフィス環境の研究を進め，新たなオフィスワークのあり方を探求されています．また，山田先生はスポーツ心理学，生理心理学，健康心理学をはじめ，精神神経内分泌免疫学，人間工学と幅広い分野でご活躍です．お二人は様々な経験から，研究方法，分析方法，その社会的貢献度など，企業の立場と大学の立場の双方の視点を説明してくださり，我々にとって貴重な講演となりました．今回，時間が 15：00 からといつもと比べて早い時間からの開始でしたが，26 名の参加者が集まり，学部生，修士生も積極的に質問し議論に参加する，とても有意義な会であったと思います．

8 月 23，24 日に夏期セミナーが企画されております．学生の交流の場を持ち，若手研究者の研究能力等の向上を狙います．是非，ご参加ください．また，第 20 回の若手の会は，11 月 16 日(金)に首都大学東京(荒川キャンパス)にて開催する予定です．様々な意見からより良い研究会になればと思います．是非こちらにもご参加くださいますようお願い申し上げます．

熱いディスカッションが交わされた

【大会のお知らせ】

第 67 回大会(2012 年東京)のお知らせ

大会長　菊池吉晃
(首都大学東京)

第 67 回大会を，下記の予定で開催いたします．本大会では，佐藤方彦先生をお招きし，「ヒトの情動　－新たな視点をもとめて－」と題したシンポジウムを開催いたします．このシンポジウムでは，生理人類学や脳科学的視点から今後のヒト情動研究の方向性について議論します．また，2 つめのシンポジウムでは「ニューロマーケティング－脳科学への期待－」と題して，最近注目されているニューロマーケティング(Neuromarketing)の現状や展望について議論します．このシンポジウムにはニューロマーケティング研究を企業で推進している方々をシンポジストとしてお招きする予定です．最新情報は，学会ホームページ第 67 回大会案内(http://www.jspa.net/)をご覧ください．多くの会員の皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます．

1. **会期**：2012 年 11 月 17 日(土)・18 日(日)
2. **会場**：首都大学東京　荒川キャンパス(健康福祉学部，人間健康科学研究科)
   〒 116-8551 東京都荒川区東尾久 7-2-10
   荒川キャンパスへのアクセスガイド
   http://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/access.html
   荒川キャンパスマップ
   http://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/map.html#map_arakawa
3. **プログラム概要(予定)**
   0) 理事会・若手の会 (11/16)
   1) 一般口演 (11/17・18)
   2) ポスターセッション (11/17・18)
   3) シンポジウム　(11/17・18)
   5) 評議員会 (11/17)
   6) 懇親会 (11/17　大学食堂)
   7) 総会 (11/18)

   ■シンポジウム 1：ヒトの情動　－新たな視点をもとめて－
   シンポジスト(敬称略)
   佐藤方彦(九州芸術工科大学名誉教授)
   星　詳子(東京都医学総合研究所)
   菊池吉晃(首都大学東京)

   ■シンポジウム 2：ニューロマーケティング－脳科学への期待－
   シンポジスト　未定
4. **参加・発表申し込み等　日程・方法**
   1) 演題申込締切：2012 年 9 月 18 日(火)
   学会ホームページ第 67 回大会案内より「発表申込書」をダウンロードして，ご記入後大会事務局まで E-mail にてお送りください．
   2) 抄録締切：2012 年 10 月 12 日(金)
   学会ホームページ第 67 回大会案内に掲載の「抄録作成要領」をご参照ください．作成した抄録は，PDF ファイルで E-mail にて事務局までお送りください．
   3) 参加申込書(演者として発表しない場合)
   学会ホームページ第 67 回大会案内より「参加申込書」をダウンロードして，ご記入後大会事務局まで E-mail にてお送りください．
   ※発表される方は「参加申込書」をご送付頂かなくても結構です．
5. **大会参加費・懇親会費**
   1) 大会参加費
   ・事前振込(10 月 12 日(金)まで)
   正会員 7,000 円，非会員 9,000 円
   学生(正会員/学生会員)3,000 円，学生(非会員)4,000 円
   ・当日払い(10 月 13 日(土)以後)
   正会員 8,000 円，非会員 10,000 円
   学生(正会員/学生会員)4,000 円，学生(非会員)5,000 円
   2)懇親会費
   正会員 3,000 円，非会員 4,000 円
   学生(正会員/学生会員/非会員)1,000 円
6. **振込先**
   ＜郵便振替＞
   口座番号：00150-0-744067
   口座名称：日本生理人類学会第 67 回大会事務局
   ＜銀行振込＞
   ゆうちょ銀行
   店　　名：〇一九店(ゼロイチキユウ店)(019)
   預金種目：当座
   口座番号：0744067

大会事務局(問合せ先)

〒 116-8551 東京都荒川区東尾久 7-2-10
首都大学東京　人間健康科学研究科
フロンティアヘルスサイエンス学域
脳機能解析科学分野内
日本生理人類学会第 67 回大会事務局
E-mail: jspa67 @ hs.tmu.ac.jp
TEL/FAX: 03-3819-7270(直通)

【学会各賞受賞者の言葉】

学会賞受賞のご挨拶

古賀　俊策
(神戸芸術工科大学)

このたびは名誉ある学会賞を賜り，大変光栄に存じます．小生，これまで履歴書の賞罰欄には一切記入する事項がなく，「しょうがないなあ～」と諦観しておりました？！

研究テーマは「ヒトの作業能力の生理人類学的研究」です．人類が獲得した身体活動能力，とくに他の動物よりも優れた生理機能によって支えられる全身持久的運動能力を研究して来ました．具体的には，潜在的な統合生理機能(全身的協関)が顕著に抽出される非定常状態に着目して，各々の生理機能(呼吸，循環，筋肉，体温など)が統合的に調節される仕組みについて検討を重ねています．

研究部会活動としては，井上芳光(大阪国際大学)，近藤徳彦(神戸大学)の先生方とともに，適応協関研究部会を運営し，ヒトの自然環境と人工環境への適応能力を考察しています．この部会の趣旨はヒトが本来有する適応能力の生理学的メカニズムを詳細に解明し，ヒトの適応能力を全身的協関の観点から捉えつつ(恒常性の維持，多重調節，相互補完作用など)，生活文化との相互関連を探求することです．会員の皆様の積極的なご参加を期待しております．

今回の受賞理由として，1990 年に神戸芸術工科大学で秋季大会を運営したこと，また 1994 年～ 1998 年に隔年で開催された国際生理人類学会議の日本側事務局を担当したことが挙げられました．とくに，1996 年に奈良で開催された大会において，大会長の登倉尋實先生(奈良女子大学)，および実行委員の方々と大会を成功裡に運営したことは良い思い出です．

小生，九州芸術工科大学の一期生として佐藤方彦先生から生理人類学を直伝されたのですが，優秀な同級生に比べて勉学が不足し，今になって佐藤先生の先見の明と生理人類学の重要性に気づかされています．酒の席では怖いもの知らずになり，「私は佐藤先生の悪い面だけを学んだが，生理人類学を勉強します！」と佐藤先生に宣言したことを覚えています．

授賞式の挨拶で述べましたように，国際化の流れと日本企業の海外シフトが加速する状況で，世界各国のヒトの特性を科学的に理解することは急務の課題です．人類学が発展した米国と英国に倣い，日本でも人類学，特に生理人類学が学校教育へ積極的に導入されるはずです．

本学会の発展に微力ながら努力したいと思います．今回は本当にありがとうございました．

Benefits of bipedalism in humans

安陪大治郎
(九州産業大学)

Journal of PHYSIOLOGICAL ANTHROPOLOGY 誌 Vol.30 No.4 に掲載されました私達の論文「Effects of load and gradient on energy cost of running」に対し，2011 年度日本生理人類学会優秀論文賞の栄誉を賜りました．

この論文では，代表的なヒトのロコモーション(移動運動)である走動作の効率に焦点を当てました．ヒトのロコモーションは直立かつ二足で行うという，他の生物にはみられない特徴がありますが，直立二足歩・走行は痔や腰痛，膝痛などを誘発しやすい上に，体の重要臓器を前方(相手)に向けるという危険性を持っています．また，同程度の体重を持つ四足動物に比べて最大疾走速度が低いことは理にかなっていません．加えて一番重い頭部が身体の一番上に位置しているので，不安定であるのと同時に立ちくらみなど循環生理学的に不利な条件を持っています．これまで，直立二足歩・走行の利点は，運動中に手で道具を扱えることであると説明されてきましたが，実は他にも利点があります．それは運動中のエネルギー消費率が他の生物より格段に低いことです．今回の受賞論文では，路面傾斜条件と後背部に配置したに重量負荷条件を組み合わせることで，脚のバネ作用と身体重心廻りの回転トルクの発生を実験的に制御しました．その結果，歩行動作とは異なり，走

動作では脚のバネ作用が走運動中のエネルギー消費率に強い影響を与えていることを筋電図解析やエネルギー代謝から説明することが出来ました．

このように私の一連の研究は，ヒトのロコモーションを機能的潜在性や全身的協関などの観点から検討してきました．このような形で研究成果が評価されたことを大変嬉しく思います．共著者でもあり，丁寧にご指導頂いた福岡義之先生(同志社大学)，村木里志先生(九州大学)，安河内朗先生(同)，新畑茂充先生(広島大学名誉教授)には感謝の言葉が尽きません．これからも関連領域の刺激を受けながら頑張っていきたいと思います．

受賞のことば

吉永尚紀
(千葉大学)

この度は，名誉ある賞を賜りまして，大変光栄に存じます．この賞を励みに，より一層身を引き締めて，研究活動に邁進していく所存です．

今回の受賞対象となりました論文は，宮崎大学の根本清次先生，そして千葉大学の田中裕二先生と藤田水穂先生より，ご指導を頂いた研究の成果です．私自身，高校生の頃より「ヒトが人たる所以ともいえる“大脳皮質の飛躍的発達”と，これがもたらす認知や反応の多様性」に興味がありました．そのため，今回の研究は感覚間相互作用に焦点を置いたデザインでしたが，「人においては，高次脳における認知的評価が介在することで，多様な生体反応が生じる」という知見を深めたことが，私にとって大変意義深いものでした．

現在は，より全人的な視点から「人」の理解を深めるべく，千葉大学医学部附属病院の精神神経科にて,看護師として研鑽を積んでいる最中です．また，千葉大学医学研究院の清水栄司先生のご指導の下，認知行動療法という治療法の研究にも取り組んでいます．この治療は，人の気分や行動が「認知」のあり方(物事の考え方や受け取り方)の影響を受けることを前提とし，「認知の偏り」を治療者との面接を通して修正することで，生活上の問題解決を図る心理療法であります．薬物治療に匹敵するエビデンスが欧米諸国で報告されている中で，さらなる治療技法の洗練・効果の検証・作用機序の解明に向けて，症状評価(心理検査)，医療経済評価(費用効用分析)，脳画像評価(f-MRI)などの，多角的な側面から研究を進めています．

近年，我が国においては，社会生活上のストレス増加に伴う精神疾患の急増が，本邦の自殺者率の高さと密接な関係にあると考えられ，深刻な社会問題となっております．厚生労働省は 2011 年より，精神疾患を急性心筋梗塞，がん，脳卒中，糖尿病に並ぶ「5 大疾患」と位置付けていることからも，精神・高次脳機能分野の研究は，社会的価値が高い学問領域と考えています．今後は，この領域での活動を中心として，「人がより良く生きること」に関わる研究と実践に，引き続き取り組む所存です．

最後になりましたが，今回の研究をご指導いただいた研究室関係各位の皆様と，一番の理解者であった家族に対して，本誌面をお借りし，あらためて感謝の意を表します．そして，日本生理人類学会のご発展と，会員皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます．

【学会動静】

ホームページをリニューアルしました

HP 担当理事　下村義弘(千葉大学)

日本生理人類学会のホームページが本年度より正式にリニューアルされました．最初の公開後 10 年ほど経過しており，今回は 2 回目の大改訂で 3 代目となります(図 1)．アーカイブデータの中から先代のファイルを開くと，学会の歴史を垣間見ることができます．最も古いリンクつきの開催案内は，第 1 回若手の会定例会(2002 年 3/1：産業医学総合研究所)や，第 1 回若手研究者発表会(2002 年 5/12：国立オリンピック記念青少年総合センター)でした．若手研究者の活躍の場が，本学会に連綿としてあることに気づかされます．また情報公開上の規定で「日本生理人類学会研究者データベースに関わる情報掲載倫理規定(2004 年 6/14：日本生理人類学会企画委員会作成)があり，当時から研究者情報の重要性を認識しその公開に積極的だったことが伺われます．和文誌は Vol.1(1)(1996 年 2 月)巻頭言「人間に関する情報の発信を目指して　佐藤方彦」から，英文誌は Vol.14(1)(1995 年 1 月)からどちらも 4 年間ほど，タイトルが公開されていました．これらの公開に

2002 ～ 2007 年

2008 ～ 2011 年

2012 年～

図 1　学会ホームページの変遷

関るファイルはすべて html の"手打ち"(情報の手入力)であり，諸先輩方のご苦労がしのばれます．現在，英文誌は BioMed Central，和文誌は CiNii により全文を閲覧でき，研究にかかわる情報ハンドリングの上でも大変恵まれた環境になっていることを痛感します．

次に，サイトの内容について詳しく見ていきます．各代のサイトデータで確認できたファイルの概要を表 1 に示します．3 代目はクラウド型で，ファイル管理をローカルで行なわないため，ページ数としました．2 代目まではいかにファイルを表示させるかという点(ファイル・マネジメント)に注力されてページが作られていたと思います. 3 代目は CMS(コンテンツ・マネジメント・システム)という技術を使い，情報の内容をいかに伝えるかという点に注力して作成されています．たとえば 2 代目では常時見せたいメニューと時事的な内容が，画面上混在していました．3 代目では新着情報と大会等の開催情報，そしてユーザが常時たどり着けるようにするメニューを明確に分け，使い勝手を向上しています．プルダウンメニューでは学会の顔でもある英文誌と和文誌は「学会誌」として独立させ，会長挨拶や各種規定は「学会について」に，研究部会や企画情報，資格認定，PA デザイン等は「学術活動」に収めています．また英語ページも CMS の利用により国内イベントの開催情報等を定期的に更新できるようになりました．サイト管理技術は益々進歩し，インターネットは表示閲覧から相互利用へと使い方が変遷しています．本学会のページアクセス数は月当たり 2000 件以上を維持しています．Web を用いて一層の会員サービスを充実させてまいりたいと思いますので，ご協力のほどよろしくお願い申し上げます．

表 1　日本生理人類学会のサイトに含まれるファイルの概要

世代	フォルダ数	ファイル数				
		総数（容量）	html	画像関連	PDF	ｵﾌｨｽ関連
初代（'02～'07）	104	1616（84MB）	504	556	215	41
2代目（'08～'11）	65	685（38MB）	181	120	95	116
3代目（'12～）	ページ数　211					

from Editors

次号 No.4 の原稿締切は 2012 年 11 月 1 日です

▽ PANews の発行回数が年 6 回から 4 回に減ったことに伴い，「News」と謳っておきながら，掲載記事の速報性はますます低下してしまいました．2 ヶ月に 1 度発行する頻度ですと，大会や国際会議の会告が更新される周期と概ね一致したのですが，3 ヶ月に 1 度ではそういうシンクロはかないません．その代わりに，種々のイベントの事後レポートをあれこれまとめて載せられる，学会関連行事のアーカイブ機能が高まったのかなという気がしております．次号では，北京で開催されたインターコングレス，京都で開催された夏期セミナーの模様をお伝えする予定です．

▽いつもはご寄稿頂く先生方からの原稿を取りまとめる役なのですが，今号では，何と自分自身が優秀論文賞を頂くことになり，実際に原稿を書く役を務めさせて頂きました．ちなみに同時に学会賞を受賞された古賀俊策先生は，小生の高校の先輩でもあります．さらに PANews の編集作業を御一緒させて頂いている仲村匡司先生も同じ高校の先輩ということで，我々母校の勢いを日本生理人類学会にてアピールできたのではないかと思いました(安陪大治郎).

▽ PANews 編集事務局

安陪大治郎　九州産業大学 健康・スポーツ科学センター
仲村　匡司　京都大学大学院 農学研究科
メールアドレス panews @ jspa.net

※原稿，お問い合わせなどはこのメールアドレス宛にお送りください．